

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

1996年(平成8年)7月5日 No.1027

目次

「第19回日ロ経済専門家会議」代表団報告会	1
シリーズ ロシア大統領選を追う(14)	9
キーパーソン	10
統計速報(1996年1~4月のロシアの経済実績)	10
CIS諸国通貨の最新為替レート	11

「第19回日ロ経済専門家会議」代表団報告会

団長 金森久雄

(社)日本経済研究センター会長

ロシア東欧経済研究所顧問

ロシア経済悲観論と楽観論

日本でもロシア経済の現状について意見が分かれているが、楽観論はあまりない。たとえば『世界週報』1996年6月11日号の「袋小路に入り込んだロシアのマクロ経済政策」(森本忠夫氏)は悲観的意見で、政策の失敗、外的条件の悪化で現在のロシア経済は大恐慌期のアメリカより悲惨な状況になっているという。価格の自由化で激しいインフレが起き、それをむやみに緊縮政策で抑えたために家計所得の実質的減少、最終消費財市場での有効需要の減少によって、生産が落ちていると論じられている。また、日本におけるロシア経済の第一人者である佐藤経明氏の「暗礁に乗り上げた急進経済政策」(『世界週報』1996年6月18日号)によれば、物価は安定したが、その基礎はきわめて薄弱であり、安定のために払った犠牲が大きく、それを回復するには保護主義を導入するしかないという考えである。

今回もロシアで多くの経済学者に会ったが、一般的に悲観的で、佐藤氏の意見に近く、逆に政府関係者や産業界の実務家は自信を取り戻してきている。学者と実務家の見解が大きく異なるの